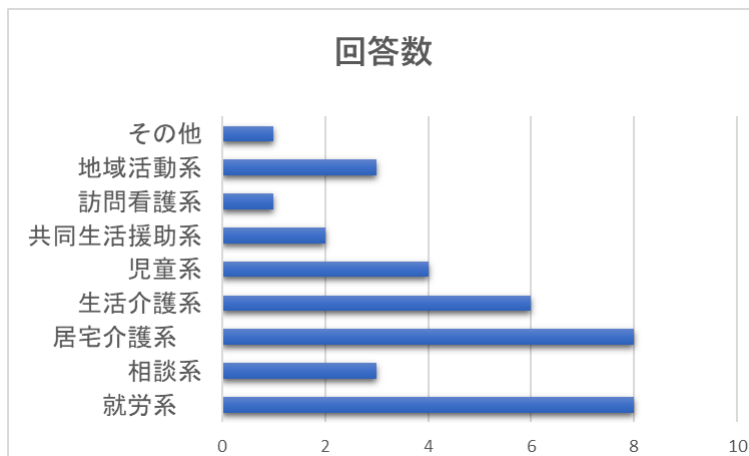


「緊急事態宣言下で、どうしていますか？」実態調査アンケート結果

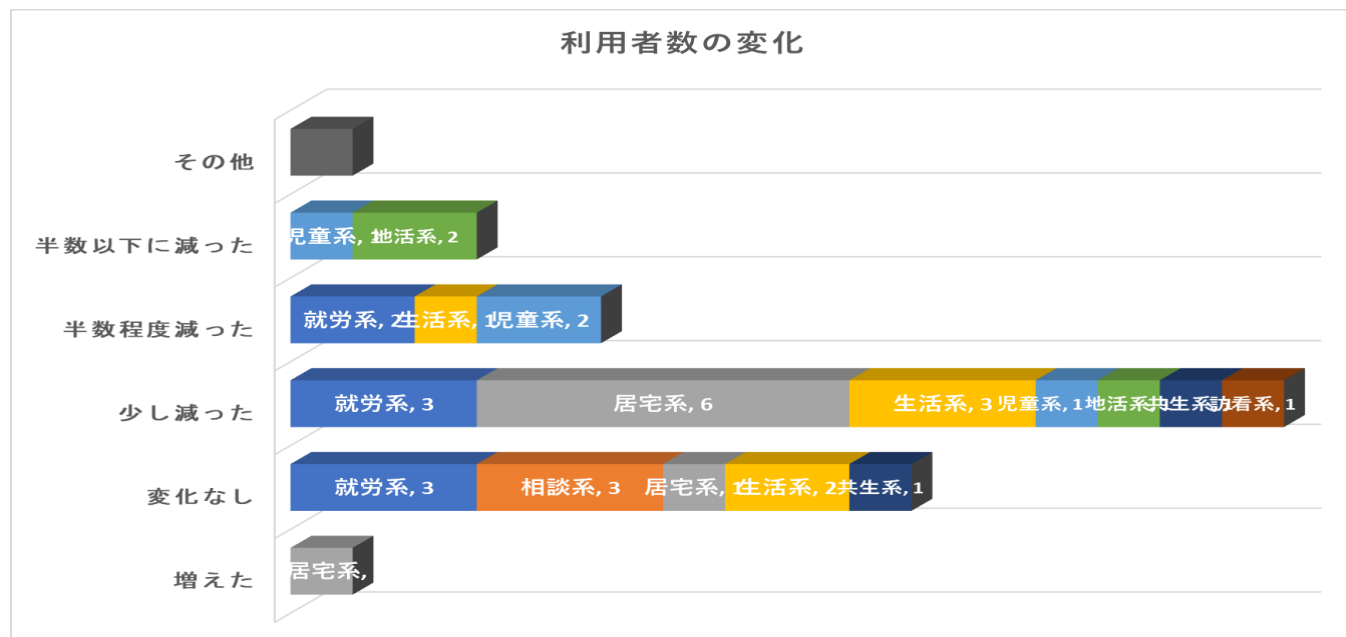
問1 回答した事業所の種類

62 事業所中36事業所が回答(58%)

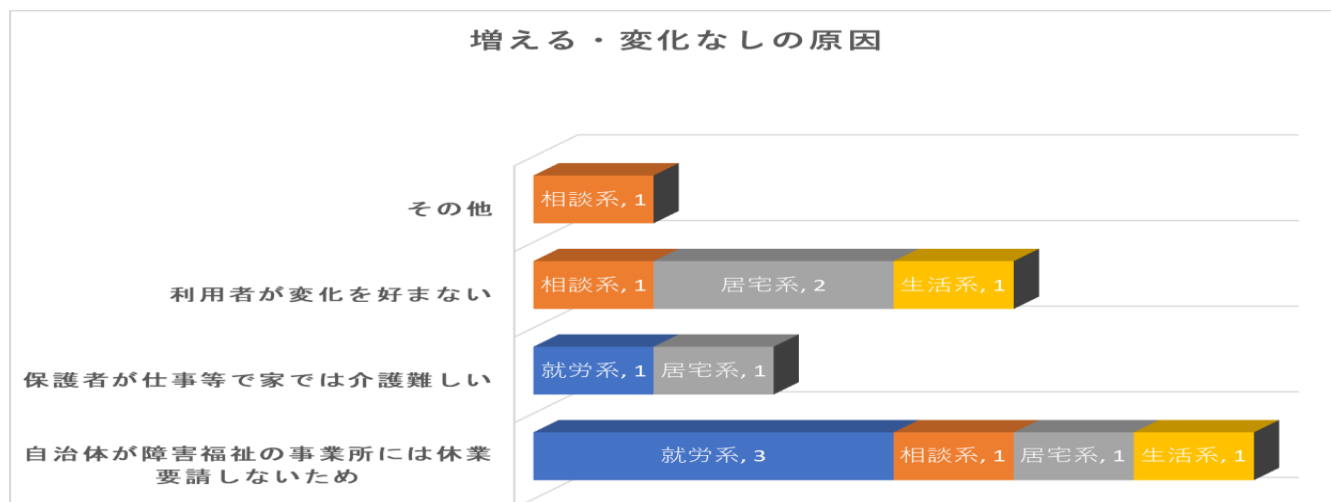
事業所種類	回答数	%
就労系	8	22%
相談系	3	8%
居宅介護系	8	22%
生活介護系	6	17%
児童系	4	11%
共同生活援助系	2	6%
訪問看護系	1	3%
地域活動系	3	8%
その他	1	3%
合計	36	100%

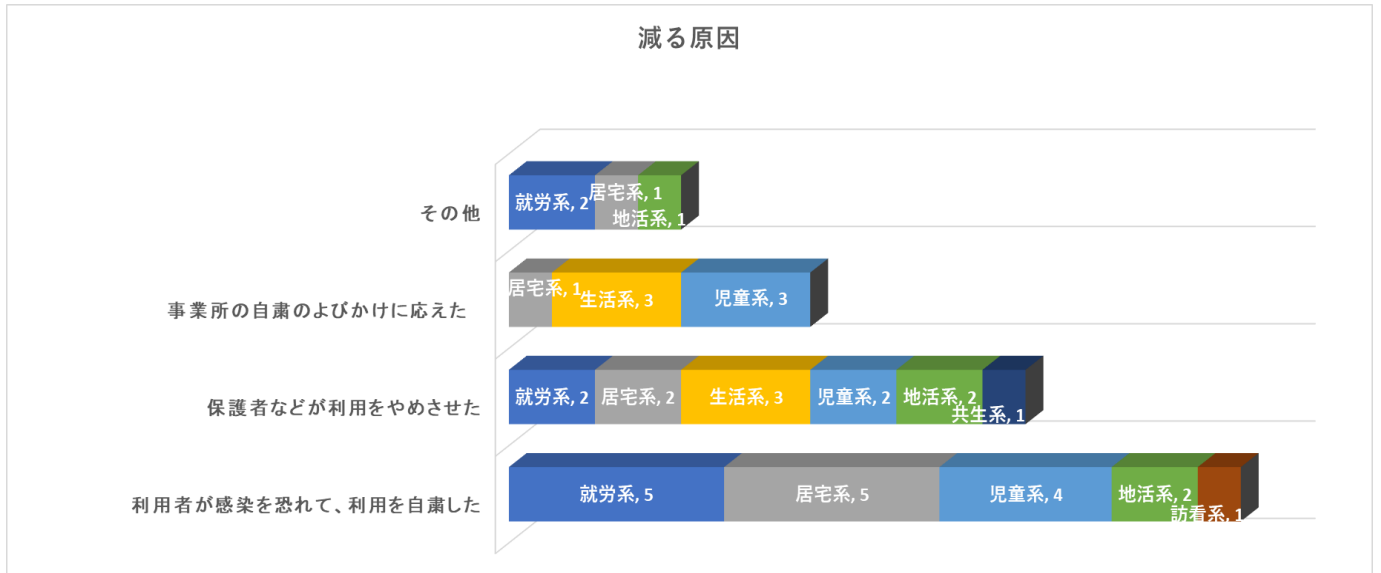


問2 利用者数の変化 利用者数が減った事業所が70%!

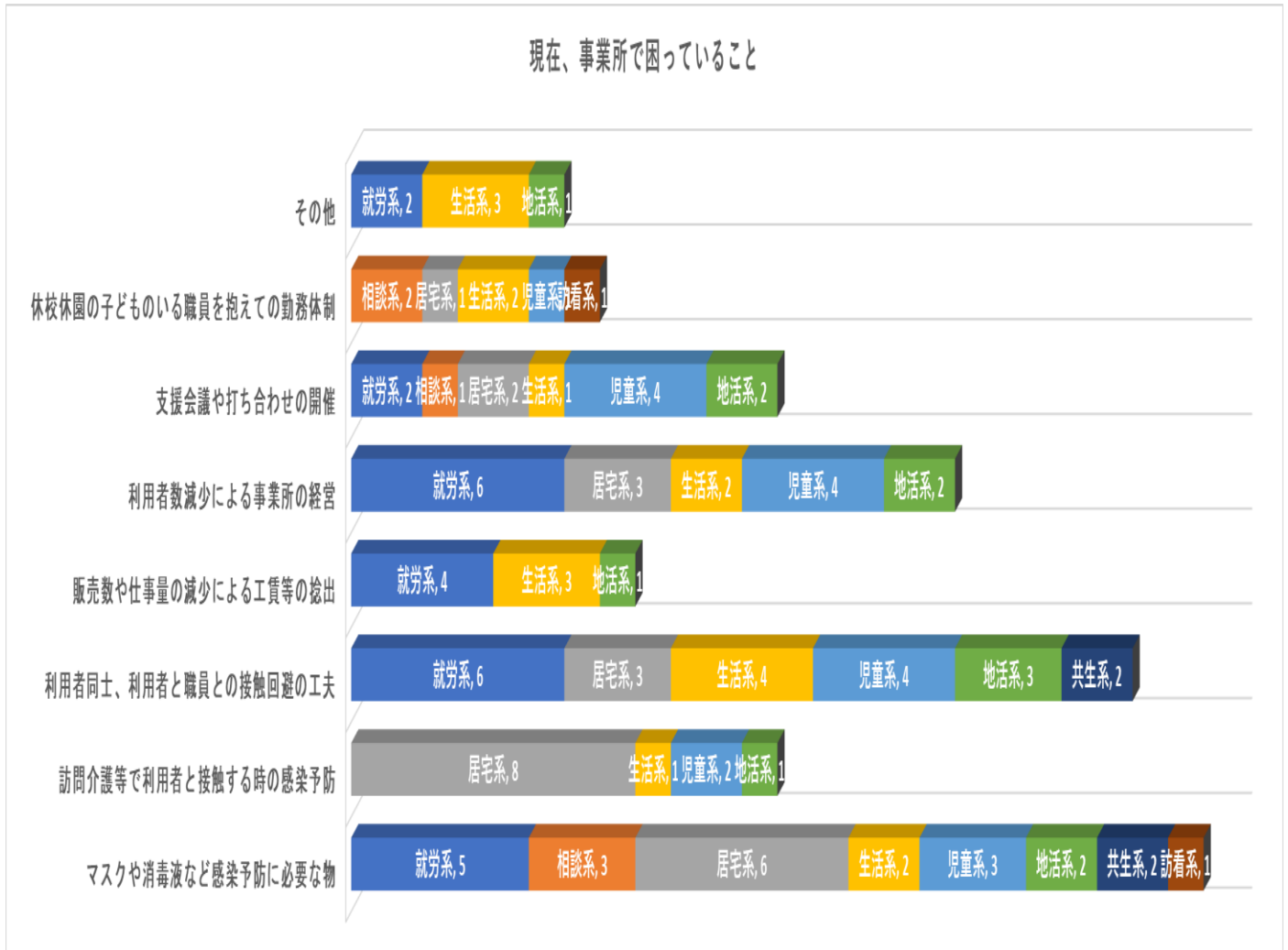


問3 変化の原因は何か?(複数回答可)





問4 各事業所で、現在困っていることは何か？(複数回答可)



<記述>

問3の1 増えた・変化なしの原因 その他

- ・相談ケースは基本的には固定で増減しない。
- ・サービス更新時期は変わらない為。

問3の2 減った原因 その他

- ・公共交通機関を使用して通所するのが心配で、保護者が送迎できる日だけ通所している。
- ・GHが公共交通機関の利用を止めているので、通所できない。
- ・本人が肺炎になりやすい方のため大事をとって休んでいる。
- ・食事提供を中止しているため、食事目的の利用者が来所しなくなった。

問4 各事業所現在の困りごと その他

- ・期限が決まっているのに、本来すべき訓練を行えない。販売先の縮小による過剰在庫。
- ・就労定着支援で会社訪問できず定期的な支援ができていない。在宅ワークになった場合の仕事内容。
- ・就職したOBの方々の収入減の相談や、休業中の過ごし方等の支援をどうしたらいいのか。
- ・精神的な不安が利用者・職員にあるので心のケアがたいへんである。
- ・休業要請がないため開所しているが、コロナ感染リスクを考えると休みにすべきか考えてしまう。
- ・該当職員は休みたくても有給休暇しか認められず休みにくい。
- ・関係者の感染があった場合以降が困ると考えている。休業補償を明確化してほしい。
- ・外出活動が難しい等、限られた条件の中で活動をしていくこと。
- ・見通しが立たない中で、利用者が不安に思いその都度対応しているが先のことが明確に伝えられない。
- ・障害特性上、急激な環境の変化に当事者が対応できず、手洗い、うがい、マスクが徹底できない。
- ・他事業所の自粛により、早く帰宅する利用者や休む利用者への対応が難しい。

問5 各事業所の工夫

- ・利用者同士の感染リスクを軽減する為に訓練道具の共有をせずに、使用する物全て個人用とする。
- ・十分な換気や洗い、うがい、消毒をし、利用者同士の席を十分に離し、かつ、席を固定する。
- ・時差通所可能とし、毎朝の検温などの健康管理を行い、利用者も含め全員マスクを着用する。
- ・訓練内容を限定し、自粛中も家庭で取り組むことができる訓練プログラムを検討中である。
- ・＜感染予防＞換気、手洗い、手指消毒の推奨、作業、器具、手すり等の消毒。全員が集まるミーティングや大勢の集まる会議の中止。密な環境を減らすため、新作業を考案し、作業室を増やした。
昼休みの時間をずらし、食事中は向かい合わないように机を壁付けにした。
＜作業量減少＞新作業（マスク製作）を始めた。既存の販売先の他、新規開拓を行った。就労部会事業所にも協力してもらった。
＜物資不足＞食品製造時に使用するアルコールの使用用途を限定し、洗剤（除菌）や次亜塩素系漂白剤で対応可能なものはそちらを使用する。ペーパータオルは、食品製造作業のみに限定し、その他は手拭用ダスターを1日1枚用意し洗濯して使用している。
- ・時短、時差出勤、作業所分散、アルコール消毒、換気の徹底。作業室その他備品関係を含めての消毒。
- ・記録等を外のポストに入れてもらい、スタッフとの接触を少なくする。
- ・訪問したらすぐに手洗い、利用者にも検温してもらおう。土日の余暇支援は当面中止。（ただし、GHから自宅は支援）平日作業所の送迎、病院・診療所への通院を支援する。打ち合わせはメールにする。
- ・外出活動は自粛しているが、利用者の健康維持のための散歩や運動は欠かさないようにしている。
- ・代替サービスで、個別に散歩などを利用してもらっている。
- ・国の保証を利用して職員に休業してもらおう。午前と午後、人が密にならるように調整している。
- ・職員打合せと職員会議を中止して文書連絡している。
- ・食堂の三密を避ける為、食事を注文している利用者をグループに分け、時間別に食べに来てもらっている。